

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

## （1）大学・学科の設置理念

### ①大学

学校法人冬木学園は昭和21年開校の冬木文化服装学院から始まる。桜井女子高等学校（現関西中央高等学校）、桜井女子短期大学（平成19年3月廃止）を経て、さらに高度な人材育成に取り組むべく平成15年4月に畿央大学を開設した。当初は健康科学部のみであったが、平成18年4月に教育学部を開設。現在では2学部5学科を有している。

冬木学園は、建学の精神として「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」の3つの理念を掲げてきた。これは、豊かな人間性を追究することこそが教育の最終目標であるとする考え方に立ち、創立以来一貫して精神的支柱とし、あらゆる教育活動において大切にしていってきた理念である。

「徳をのぼす：豊かな人間性、コミュニケーション力と思いやりの心を身につける」

住みよい社会をつくるためには、先ず個々に敬愛の念をもち、お互いの幸せを願い、恵みを与えあう心を養わなければならない。すなわち小さい徳を積み、広く社会を潤していく精神を養いたい。

「知をみがく：科学的認識に支えられた知性とたゆまぬ探究心を培う」

人間の進歩向上とは、自己の才能を最大限に練磨することである。知識欲を失えばただ退歩あるのみである。私達はあくことなく頭脳を磨き、励まし合い、研究的な態度を養成したい。

「美をつくる：豊かな感受性をもち創造する力を磨く」

すべての優れた技術は、この世の中にすばらしい美の贈り物をすることができる。美しいものは見る者の心を澄まし、喜びとやすらぎを与えてくれる。私達の手で、日々ひとつでも多く、美しいものを創造していきたい。

畿央大学ではこの精神を教育の基本理念に置き、高潔な人格と幅広く高度な学識・技術を身につけ、地域社会および国際社会の発展に創造的に貢献できる有意な人材を育成することを目的としている。

さらに近年は時代の趨勢を鑑みた情報教育にも力を入れている。平成26年度以降は入学生全員にノートPCを貸与し、全学統一のLMS「OpenCEAS」を活用したオンライン学修の展開など先駆的な取り組みを実施。その成果は令和3年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」への選定（制度開始年度の関西地方における選出校は本学を含めて5校のみ）を受けるなど、高く評価されている。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

本学の健康科学部人間環境デザイン学科は桜井女子短期大学生生活科学科生活科学専攻を起源とし、平成15年の畿央大学開学とともに同大学健康科学部健康生活学科人間環境デザイン専攻へ移行した。その後、平成19年から健康科学部人間環境デザイン学科となり、現在に至っている。

当初は短期大学から継承した家政学的な色合いが強かったが、大学への改組、さらに学科としての独立を経るに従って、一級・二級建築士やインテリアプランナーの資格取得を可能とする建築・材料加工・工学系のカリキュラムを充実させ、建築設計から空間デザイン、家具、衣服、生活用品

など、様々な観点から人の暮らしを豊かにする方法を追求してきた。

これらの多角的な学びを通じて、快適な生活環境を創る高度な専門知識と技能、実践的な問題解決能力を備え、建築士やインテリアプランナー、施工管理技士、あるいは中学校・高等学校の家庭科教諭等としてその能力を社会で発揮できる人材を育成してきた。学科の教育において特に重視しているのは、以下のような点である。

- ・ 幼児から高齢者、障がい者をはじめ、すべての人間の生命への畏敬の念を持ち、教育に携わる者としての倫理観を有している。（本学の特色である「生命倫理」および「ユニバーサルデザイン」を中心に）
- ・ 生活環境に関する様々な分野の専門家や教育現場の同僚や保護者との連携・協働に必要な協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを身につけている。（「ベーシックセミナー」や「プロジェクトゼミ」を中心に）
- ・ 人体の構造・機能や人間の生活全般についての科学的認識を持ち豊かな教養を備えている。（「日常生活活動学入門」や「人間工学」など各分野の専門基礎科目及び専門科目を中心に）
- ・ 建築・被服分野に関する総合的な知識と専門的視点を有している。（「建築学概論」や「アパレル構成論」など各分野の専門科目を中心に）
- ・ 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを修得し、自らの意見を正確に相手に伝えることができる。（必修科目「情報処理演習」を中心に）
- ・ 一人ひとりの特性に応じてデザインすることができる感性や創造力を生涯にわたってみがき続けることができる。（「プロジェクトゼミ」や「卒業研究」等を中心に）
- ・ 修得した専門的知識と技術を土台として、これからの時代に必要とされる環境を適切に分析し、地域社会全体の教育力の向上・発展に寄与できる。（実習・演習科目を中心に理論に関する科目と有機的に関連づけて）

建築設計等の実技演習はもとより、フィールドワークやグループワークを積極的に導入する問題解決型カリキュラムの展開により、獲得した知識を実社会で生かしながら活躍できる人材の育成に努めている。

## （２）教員養成の目標・計画

### ①大学

畿央大学は健康科学部・教育学部の2学部から成る。このうち、教育学部には既に幼稚園教諭一種・小学校教諭一種・中高英語教諭一種・中高数学教諭一種・養護教諭一種・特別支援学校教諭の課程を有している。また、健康科学部には看護医療学科に養護教諭課程、健康栄養学科に栄養教諭課程、人間環境デザイン学科に中高家庭科教諭一種の課程をそれぞれ有している。今回の申請は、この人間環境デザイン学科に新たに中学技術科教諭課程の設置を行うものである。

情報化やグローバル化が進展し、様々な考え方や多様な価値観が広がる中で、人々の絆やつながりがますます重要となっている。そうした変化に対応しながら、自立した1人の人間として、他者とともによりよく生きていこうとする子どもの育成が、教員に求められている。

畿央大学における教員養成は、生命への畏敬の念と子どもに対する深い理解と愛情を持ち、専門的な知識と実践力を備えた”タフで元気な教員”の養成を目指している。教育理論や専門知識、教科等の概論や指導法とともに、学校インターンシップをはじめ、子どもとかかわる多くの体験の機会を設けることで、様々な教育課題に対して「チーム学校」の一員としてコミュニケーション力を発揮しながら解決していこうとする実践力や、生涯にわたって学び続ける態度を備えた教員の養成を行っている。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

健康科学部人間環境デザイン学科は、建築学、インテリアデザイン、アパレル造形など多様な専門分野への深い理解に基づく教育を提供している。同時に、デジタル時代に適応した教育を目指し、ICT教育にも力を入れている。これらのアプローチにより、学生は情報技術を活用し、教育現場での教員としての役割を効果的に果たす基盤を形成している。

さらに、本学科は人間に対する深い畏敬の念と、デザインに携わる者としての倫理観を重視し、専門家との連携・協働に必要なコミュニケーション力とリーダーシップを育成している。加えて、建築・デザイン分野に関する総合的な知識と専門的視点の獲得、プレゼンテーションスキルと自らの意見を伝える能力の向上にも注力している。これらの要素は、理論を現実の生活環境や問題解決に応用する能力の発展に寄与する。

教育プログラムでは、学生が実際のプロジェクトや実験に参加し、実践的技能の習得に重点を置いている。これにより、学生は多様な分野に通じる能力を身につけ、現代の教育現場に適応した優秀な技術科教員として活躍することが可能である。人間環境デザイン学科における技術科教員養成は、教員としての資質能力の向上にも注力しており、使命感、責任感、教育的愛情といった人間的な要素と、専門的知識、実践的指導力をバランス良く併せ持つ教員の養成を目指している。

## （3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

### 健康科学部 人間環境デザイン学科（中学校教諭一種 技術）

現在、多くの中学校現場においては技術科の免許状を持つ教員が不足しており、臨時免許状等による対応を余儀なくされている状況である。中央教育審議会第132回総会（令和4年12月19日付）において取りまとめられた「『令和の日本型教育』を担う教師の養成・採用・研究等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」の中でも、教員免許状の保有者数について、

・教科別では、中学校では保健体育、社会、外国語、高等学校では保健体育、理科、外国語の順で授与件数が多い。ただし、中学校における標準授業時数を加味した比較では、保健体育、音楽、社会が多いのに対し、技術、数学、理科の授与件数が少ない。

と述べられている。

文部科学省の調査によれば、令和4年度には技術分野の授業を担当した教員の23%にあたる2,245人が技術科の正規免許を保有していなかったことが明らかにされている。特例的な「免許外教科担任」や期間限定の「臨時免許」で教鞭をとっている事例もあるが、この分野において正規の資格を有し、高い専門性を持つ教員の確保が急務となっていることは明らかであると言える。

現在、またこれからの中学校技術科教育では、ものづくりなどの活動を通し、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する能力を涵養する必要がある。

人間環境デザイン学科では、建築、インテリア、アパレル造形等の学びを通して、人々の生活をより豊かにするための、材料、加工、エネルギー変換等の基礎的な理解や製図の技能を習得させ、学科必修科目である「プロジェクトゼミ」等での学内外でのゼミ活動により、その実践を評価、改善することで課題解決力を身につけた技術科教員を養成する。これらの知識、実践力の下支えとなるのが情報活用能力であるが、本学では全学生にノートPCを貸与、活用できるようにしている。他、全学的にICT教育に力を入れ、初年次より教養科目から段階的に学びを深めている。「先端テクノロジー概論」、「デジタル空間デザイン演習」では、さらに学びを深め、仮想空間を造るためのプログラミング力を習得するが、この知識および技術力によって、生徒が小学校で学んだプロ

グラミング教育を活かし発展させるために、十分な指導力を養うことが可能である。

上記のことから、本学科においては現在の社会が求めている中学校技術科教員を養成、輩出するための教育課程、教育体制が整えられており、その課程を開設することは大きな社会的意義がある  
と考える。

## I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

### (1) 各組織の概要

①

組織名称：	教務委員会
目的：	教職課程を含めた大学全体の教務に係る事項の審議及び学部・学科間の教務に係る連絡調整等を行う。
責任者：	教育学部長 教授
構成員(役職・人数)：	委員長 1名(教育学部長 教授) 委員 10名(健康科学部長 教授、健康科学部理学療法学科長及び主任 ともに教授、同学部看護医療学科長及び主任 ともに教授、同学部健康栄養学科長及び主任 ともに教授、同学部人間環境デザイン学科長及び主任 ともに教授、教育学部現代教育学科長 教授) 事務 6名(大学事務局長、教育推進部長・同課長・同主任 各1名、教育推進部課員2名)
運営方法：	原則としては月1回の定例開催だが、それ以外にも大学全体の教務に係る議題が生じた際には委員長が委員を招集し、運営にあたる。

②

組織名称：	教職課程専門委員会
目的：	教務委員会の下に位置し、特に教職課程に関する事項の審議及び学部・学科間の教職課程に係る連絡調整等を行う。
責任者：	教育学部現代教育学科長 教授
構成員(役職・人数)：	委員長 1名(教育学部現代教育学科長 教授) 委員 4名(健康科学部看護医療学科 准教授、同学部健康栄養学科 准教授、同学部人間環境デザイン学科 教授、教育学部現代教育学科 准教授) 事務 3名(教育推進部長・同主任・同課員 各1名)
運営方法：	教職課程に関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

③

組織名称：	教育実習等専門委員会
目的：	教務委員会の下に位置し、教育実習や保育実習、介護等体験等に関する事項の審議及び学部・学科間の教育実習・介護等体験等に係る連絡調整等を行う。
責任者：	現代教育学科 教授
構成員(役職・人数)：	委員長 1名(教育学部現代教育学科 教授) 副委員長 1名(教育学部現代教育学科 教授) 委員 11名(健康科学部看護医療学科 准教授、同学部健康栄養学科 准教授、同学部人間環境デザイン学科 教授 以上各1名、教育学部現代教育学科 教授 4名・准教授 4名)

事務局 3 名（教育推進部 主任 1 名・課員 2 名）
運営方法：教育実習や保育実習、介護等体験等に関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

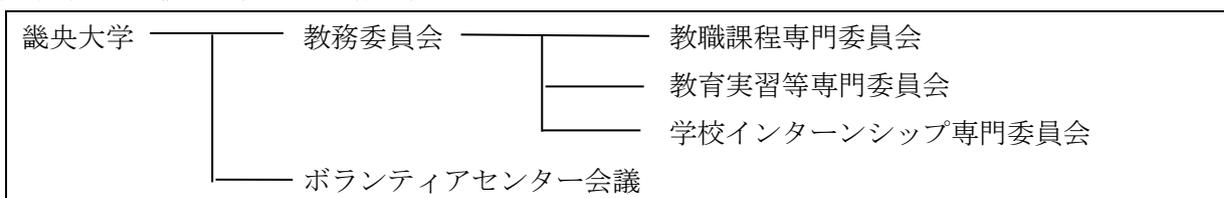
④

組織名称： 学校インターンシップ専門委員会
目的： 教務委員会の下に位置し、学校インターンシップ（単位化している）に関する事項の審議及び実習校・教育委員会との連絡調整、実習生の割り振り、実習中の指導、事前・事後指導等を行う。
責任者： 現代教育学科 講師
構成員（役職・人数）： 委員長 1 名（教育学部現代教育学科 教授） 委員 6 名（健康科学部看護医療学科 准教授、同学部健康栄養学科 教授、同学部人間環境デザイン学科 教授 以上各 1 名、教育学部現代教育学科 准教授 2 名、講師 1 名） 事務 3 名（教育推進部 主任 1 名・課員 2 名）
運営方法：学校インターンシップに関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

⑤

組織名称： ボランティアセンター会議
目的： 学校ボランティア（単位化していない）を含むボランティアに関する事項の審議及びボランティア先との連絡調整、学生へのボランティア先への紹介、ボランティア中の指導を行う。
責任者： 現代教育学科 准教授
構成員（役職・人数）： 委員長 1 名（教育学部現代教育学科 准教授） 委員 5 名（健康科学部理学療法学科 助教、同学部看護医療学科 准教授、健康科学部健康栄養学科 准教授、同学部人間環境デザイン学科 准教授、教育学部現代教育学科 准教授） 事務 3 名（教育推進部 主任 1 名・課員 2 名）
運営方法：学校ボランティアを含むボランティアに関する議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



## II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

・包括的な連携協力に関する協定を奈良県内の大和高田市、香芝市、宇陀市、広陵町、上牧町、斑鳩町、田原本町、安堵町等の自治体と締結し、教育及び研究の充実・発展に資することができるようにしている。また大阪府八尾市とも学校インターンシップに関する協定を締結している。

・複数の教員が教育委員会における研修講師や基本計画策定委員等を努め、地域の教育施策に積極的に寄与している。

## (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	学校インターンシップ
連携先との調整方法：	希望者は「学校インターンシップ専門委員会」において提携先の大和高田市・香芝市・宇陀市・広陵町・上牧町・安堵町・田原本町・斑鳩町・八尾市の各教育委員会に受け入れを依頼し、調整の上で各自治体の幼稚園・小学校・中学校に割り振りを行う。
具体的な内容：	学生には各校・園での活動（授業支援、自習支援、給食・清掃時間への参加など）のほか、大学内で実施される「事前研修会」「中間報告会」「期末報告会」への出席を義務付け、併せてレポート課題の提出も求めている。これらすべてを終えた者にのみ単位が与えられる。

取組名称：	学校ボランティア
連携先との調整方法：	学校インターンシップに関して提携を結んでいる自治体以外のところでの活動や、柔軟な日程編成での活動を希望する学生が自身で活動先を見つけて行う。
具体的な内容：	活動内容は個別に異なるが、主に授業支援、自習支援、給食・清掃時間への参加などである。なお、「ボランティアセンター」においては、その活動に関する情報提供及び推奨・支援を日常的に行っている。

## Ⅲ. 教職指導の状況

・大学教務委員会の中に「教職課程専門委員会」を設け、履修カルテや教職実践演習をはじめとして、教職に関わる内容について対応している。同委員会では『教職課程ハンドブック』を作成して1回生前期のオリエンテーションで配付し、教職課程の履修についての指導を行っている。

・全学組織として、「教育実習等専門委員会」を設け、教育実習や介護等体験に関わる指導の対応や調整を行っている。

・全学組織として、「学校インターンシップ専門委員会」を設け、実習校・教育委員会との連絡調整、実習生の割り振り、実習中の指導、事前・事後指導を行っている。

・全学組織として、「ボランティアセンター会議」を設け、ボランティア先との連絡調整、学生へのボランティア先の紹介、ボランティア中の指導を行っている。

・事務局部署として「教採・公務員対策室」を設け、特に教育学部の教員との連携を密にしながら、教職経験者による教員採用試験ガイダンス、個別指導、対策指導、講師等の登録指導を行っている。また、全学組織として「教採・公務員対策室運営委員会」を設け、教採・公務員対策室の取り組みについて全学としての連携や評価を行っている。

・本学は担任制をとっており、個々の学生の進路希望や履修計画、履修状況を把握し、適宜指導を行っている。

## 様式第7号ウ

## ＜人間環境デザイン学科＞（認定課程：中一種免（技術））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	情報処理や英語の基礎を修得することと併せて、中学校技術科の教職課程に対するイメージを持ち、自らの志向を明確に意識できるようにする。
	後期	情報処理や保健体育の基礎を修得することと併せて、「教育法制論」の履修により、教育に係る法制度の概要を学ぶ。また、中学校学習指導要領にもとづき、「構造力学Ⅰ」「建築図学」「インテリアデザイン」等の履修により、基本的な設計原理とインテリアデザインの基礎知識を学ぶ。
2年次	前期	「建築設計演習Ⅰ」「インテリアデザイン演習A」等の履修により、建築とデザインの基本原則を学ぶ。また、「機械入門」の履修により機構（メカニズム）が用いられている身近な機械の動きのしくみを、「栽培学」の履修により生態系と生物多様性を学ぶ。さらに、「教育原理」「教職概論」等の履修を通じて教職に就くために求められる基礎的な事項を学び、自らの志向や適性との親和性を確認できるようにする。
	後期	中学校学習指導要領にもとづく「技術科指導法Ⅰ」を履修しつつ、「建築設計演習Ⅱ」「インテリアデザイン演習B」等の履修により、応用設計技術と空間の特性を活かしたデザインの方法を学ぶ。また、「数理・データサイエンス」の履修により、統計を中心とする情報処理技術の基礎を学ぶ。さらに、「教育相談」「教育方法・技術論（総合的な学習の時間の指導法を含む）」等の履修を通じて教職に就くために求められる基礎的な事項を学び、自らの志向や適性との親和性を確認できるようにする。
3年次	前期	中学校学習指導要領にもとづく「技術科指導法Ⅱ」を履修しつつ、「建築設計演習Ⅲ」「インテリアデザイン演習C」等の履修により、専門的な設計技術を習得し、デザインに関する理論的な知識を深める。また、「先端テクノロジー概論」の履修により、テクノロジーの基礎を学ぶ。さらに「教育課程論」の履修を通じて教職及び教育課程への理解を深める。
	後期	中学校学習指導要領にもとづく「技術科指導法Ⅲ」を履修しつつ、「建築設計演習Ⅳ」「インテリアデザイン演習D」「建築設備学演習」等の履修により、実践的な設計技術と再生のためのデザインの方法を身につける。また、「デジタル空間デザイン演習」の履修により、仮想環境とインタラクティブデザインの技術を学ぶ。さらに、「道徳指導法（中等）」「特別活動指導法（中等）」「生徒・進路指導論」の履修を通じて多様な生徒への対応力を身につける。
4年次	前期	中学校学習指導要領にもとづく「技術科指導法Ⅳ」を履修した後、教育実習を通じて教育の現場でこれまで学んできた内容を実践するとともに、今後の課題を意識できるようにする。
	後期	「教職実践演習（中・高）」を通じて教育実習における自身の体験を振り返り、反省や課題解決を行うことで実践力を教育現場で発揮できる教員としての能力を修得する。

様式第7号ウ（教諭）

＜人間環境デザイン学科＞（認定課程：中一種免（技術））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期				英語コミュニケーションⅠ	デッサンⅠ
					情報処理演習Ⅰ	立体表現Ⅰ
	後期	教育法制論	構造力学Ⅰ		スポーツ実習Ⅰ	デッサンⅡ
			建築図学		スポーツ実習Ⅱ	立体表現Ⅱ
			インテリアデザイン		運動の科学	
			情報処理演習Ⅱ			
2年次	前期	教育原理	建築設計演習Ⅰ			建築材料学
		教職概論	インテリアデザイン演習A			構造力学Ⅱ
		教育心理学	機械入門			
		特別支援教育入門A	栽培学			
		ICT活用の理論と実践				
	後期	技術科指導法Ⅰ	建築設計演習Ⅱ		日本国憲法	コンピュータグラフィック
		発達心理学	インテリアデザイン演習B			建築一般構造Ⅰ
		教育方法・技術論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	数理・データサイエンス			プロジェクトゼミA
		教育相談				
3年次	前期	技術科指導法Ⅱ	プロダクトデザイン			建築一般構造Ⅱ
		教育課程論	建築設計演習Ⅲ			建築材料実験
			インテリアデザイン演習C			プロジェクトゼミB
			先端テクノロジー概論			
	後期	技術科指導法Ⅲ	建築設計演習Ⅳ			プロジェクトゼミB
		道徳指導法（中等）	インテリアデザイン演習D			
		特別活動指導法（中等）	建築設備学演習			
		生徒・進路指導論	デジタル空間デザイン演習			
4年次	前期	技術科指導法Ⅳ				
		中等教育実習指導				
		中等教育実習Ⅰ				
		中等教育実習Ⅱ				
	後期	教職実践演習（中・高）				